健全育成シリーズ（109）
父親の存在と子育て

いじめ、自殺、幼児虐待など子どもの事件が毎日のように報道され、まさに子育ての危機といった感があります。

ところで、こうした問題の背景には日々の人間的な温かさを失っていく社会の問題や教育制度の問題、学校・教師の問題もありますが、同時に家庭・親のあり方が問われることも否定できません。とりわけ思春期ともなると、父親の存在が大きな比重を占めるようになります。「あなたのお子さんはお父さんを尊敬していますか」と聞かれて、果たしてどれほどの親が自信を持って「はい」と答えられるでしょうか。

かつて「一家の大黒柱」とか「厳父」と呼ばれたような権威のある父親の姿は見られなくなったような気がします。

ある社会人類学者は、「権威のある父親というものは、日本の社会ではあくまでも家長としての父親だった」と言い、戦後、家父長制的家族制度が廃止され、家長が世帯主にかわり、かつての家長としての特権をすべて失うことによって、父親が権威ある存在でなくなったと説明しています。それも一理あると思いますが、父親は社会的労働、母親は家事といった家庭における役割分担がはっきりしていた時代にあっては、一家を支えるための労働が、父親の権威を支える確かな骨組みを作っていました。父親はただの家長であっただけではなく、一家の稼ぎ手であったから偉かったのです。

それなら「働きバチ」などと言われる今の父親だって同じことではないかと反論されそうですが、ちょっと事情が違います。最近は、共働きや婦人の社会参加の傾向が強まる中で、子育てについての父母の役割意識の変革に加えて、父親の労働する姿が、家族に見えなくなりました。

働いている父親の姿を、一度も見たことがないという子どもが多くなっています。それどころか、父親がどのような職場で、どのような仕事にたずさわっているのかさえ知らない子どもも少なくありません。子どもは働く父親を通して社会を知り、社会人となるための様々な知識を身につけていったものですが、今日、父親は必ずしも子どもにとって社会を学ぶ上での教師でなくなったかもしれません。

不在がちな父親に代わって、テレビがはるかに豊富で新鮮な情報を提供するようになったのです。そのうえ子育ては母親任せということになれば、もはや父親の存在は見えません。そんな父親を、子ども達はどう見ているでしょう。

父親自身に自分の職場や仕事について語ってもらうようにすると同時に、仕事の大変さや社会的立場について話してあげることがとても大切なことではないでしょうか。これは本人ではだめなのです。とかく批判的な目が育つ思春期の子どもは、「お父さんはすぐ自慢話をする」というように受け取るからです。それとは逆に、ついうっかり子どもの前で愚痴っぽいことを言うような母親の態度が、父親のイメージをさらに悪くしているかもしれません。母親が心から父親を尊敬している姿を子どもに見せるだけでも、子どもの父親を見る目は変わります。子どもと父親の問題を問う前に、夫婦の問題を問う必要があります。

子育ては夫婦協同の仕事です。ここ一番と言うときに相談相手になる、そういう安心感を子どもに与えられる父親になってもらうように、夫婦の話し合いをすすめてほしいと思います。

伝言板

大月保健所

大月市大月町花咲1608―3
☎(22)7824
FAX (22)7828

光化学スモッグについて

○光化学スモッグとは

大気中の炭化水素や窒素酸化物などが紫外線を受け生成した光化学オキシダントと呼ばれる物質により引き起こされる大気汚染現象のことを呼びます。

○予防対策

予報・注意報などの発令時にはなるべく屋外に出ないでください。

また、屋外での過激な運動は避けてください。

○光化学スモッグにより目やのどに刺激を感ずるなどの被害を受けた時は、大月保健所又は市役所に連絡してください。

☆目が痛い、のどが痛いなどの症状だけの場合

水、1％の食塩水などによる洗顔、うがいを行ってください。

☆胸の痛み、けいれん、意識障害などがある場合

前記の洗顔、うがいなどを行った後、安静にして医師の指示を受けてください。

光化学スモッグ

「いのちのリレー・ボランティア」募集中

山梨県では、臓器移植を推進するため、臓器移植の正しい知識の普及と意思表示カードの配布などの活動をしていただくボランティアを広く県民の皆さんから募集しています。

身近なところで、都合の良いときに、意思表示カードの配置や配布などの普及啓発活動をお願いすることになります。

○募集期間

平成十二年七月三十一日まで

※八月以降も随時受け付けます

○応募資格

県内在住で臓器移植に理解のある十五歳以上の方

○申込方法

住所、氏名、年齢、職業、電話（FAX）番号を電話または、FAXなどで大月保健所まで

あなたの優しさと思いやりが命を救います。

臓器移植に御理解をいただき、『臓器提供意志表示カード』をお持ちください。